

山形県立保健医療大学 大学院保健医療学研究科 案内



山形県立保健医療大学



山形県立保健医療大学大学院

学長 上月 正博

本学は、2000年に1学部3学科を擁する4年制大学として開設され、2010年に公立大学法人として法人化しました。本年は設立から23年目を迎えましたが、この間、2004年に大学院修士課程(大学院博士前期課程)、2017年に大学院博士後期課程を開設し、看護学、理学療法学、作業療法学の3学位(修士、博士)を授与する体制になりました。山形の地に、基礎教育から、高度・専門化した研究までを一貫しておこなう保健医療の教育と研究を提供する拠点が確立し、着実な発展を遂げています。大学院卒業生は、山形県内はもちろん、東北地方や全国で保健医療の教員、指導者、専門職として華々しく活躍しています。

周知の通り、世界の保健・医療・福祉を巡る環境は激変しています。医療技術やInformation and Communication Technology (ICT)は絶え間なく革新され、それに応じた患者・利用者への対応も多様化しています。先進国では少子高齢化・人口減少社会が到来し、発展途上国でも数十年先には同じ問題を抱えることが確実視されています。

わが国は少子高齢化・人口減少社会の先頭を走っていますが、とりわけ山形県を含む東北地方は、その先頭、すなわち「世界の先頭」を走っています。本大学院は、山形県内や東北各地をフィールドとすることが容易であることから、今後わが国はもちろん、全世界の喫緊の課題である少子高齢化・人口減少社会における保健医療の種々の課題や対応策を探究する先駆的研究に取り組みやすい絶好の環境にあります。すなわち、本大学院で研究活動して成果をあげることが「世界を牽引する」ことになるのです。本大学院卒業生が各所で華々しく活躍している理由にはこのような背景があります。

もちろん、大学院生が成長するためには、本人の努力に加えて、恵まれた研究環境が必要です。本大学院は、多彩で高度な教育・研究能力を有する世界水準のスタッフを擁しており、これらの教員が分野の壁をこえて、相互に教育と研究に関わり合う全学的・学際的な指導にも配慮しております。しかも最先端の教育・研究機器が揃っております。加えて、本学は欧米の大学をモデルとしており、ヨーロッパ調の美しい校舎をはじめ東京ドームより広い5ヘクタールを超える広大なキャンパスを有し、10ヘクタールを超える「健康の森公園」に隣接するなど、恵まれた自然環境の中にあります。まさに、「科学や教育の心」を養うには絶好の環境にあります。

また、本大学院では、research assistant (RA) 制度やteaching assistant (TA)制度を活用した本大学院生への経済的支援制度を整備しております。さらに、講義を夜間・休日に設定するなど、社会人大学院生の受講や研究にも最大限の配慮を払っているほか、ICTを駆使した遠隔講義にも対応しているため、必ずしも現在の居住地を離れる必要もありません。したがって、保健・医療に従事しながらより高度な技術・知識の獲得や直面する課題の解決を目指す、学び直しなどでも本大学院を活用できます。

教育・研究環境抜群の本大学院で、世界水準の保健・医療のスペシャリストになれるように、私たち教職員一同は全力で支援しますので、どうぞ、「志を高く」本大学院の門を叩いてください。

山形県立保健医療大学大学院
学長 上月 正博



山形県立保健医療大学大学院
保健医療学研究科

研究科長・教授 **高橋 俊章**

山形県立保健医療大学大学院は、保健医療学研究科保健医療学専攻として、博士前期課程と博士後期課程で構成され、看護学分野、理学療法学分野、作業療法学分野の3分野を有しています。博士前期課程は、変化する保健・医療・福祉に対応し得る創造的な知識や技術を探求し、看護学、理学療法学、作業療法学のそれぞれの視点から高度な専門的知識と技術を有する人材養成を目標に、博士後期課程は保健・医療福祉の研究者、高度専門職者及び教育者の養成を目標に、社会に貢献することを目指しています。また、看護学分野においては、高度な看護実践能力の獲得をめざした専門看護師課程を開講しています。

現在、社会が抱える課題が多様化・複雑化しているなかで、社会が求める教育・研究や医療の在り方にも大きな変化が生じています。こうした中、本大学院では、大学院生が抱える課題や希望を優先して研究領域を決定し、本人の経験、志向及び能力等に十分配慮した研究指導を行います。特に、博士後期課程では、大学院生の経験や適性等を勘案のうえ、分野間の連携により主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の3名体制による手厚いサポートを準備しています。

また、本大学院は県内外の保健・医療・福祉の分野で働いている方々が、課題解決に取り組みカリキュラム教育の場でもあります。そのため、夜間の講義、休日を利用した集中講義、インターネットを用いた遠隔講義及び長期履修制度等の学習機会を整えています。

大学院で学ぶことは自分の未来を切り開いていく端緒となります。本大学院で様々な領域を専門的に学究する教員や多様な背景を持つ学生の仲間とともに、多くのことを学び、研究課題に取り組むことで、新しい発想が生まれ、抱える課題の解決策を導けると思います。そして、その成果により山形県民はじめ国民の保健・医療・福祉の向上に寄与することを期待しています。

入学を検討される方は、指導を受けようとする教員に御連絡いただき、入学後の研究等について御相談ください。

山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科
研究科長・教授 高橋 俊章



教育目標

保健・医療・福祉の現場において卓越した実践能力と調整能力を持つ高度専門職業人や、次代を担う人材の育成、指導を行う教育者及び地域社会の諸課題へ対応するための研究開発能力に優れた研究者を養成する。



大学院の概要

名 称	山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻
研 究 科 長	高橋 俊章
博 士 前 期 課 程 定 員	12名
学 位	修士（看護学）、修士（理学療法学）、修士（作業療法学）
標 準 修 業 年 限	2年
博 士 後 期 課 程 定 員	3名
学 位	博士（看護学）、博士（理学療法学）、博士（作業療法学）
標 準 修 業 年 限	3年



アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

本大学院では、次に示すような意欲と向学心のある人を求めています。

- ① 保健・医療・福祉の分野で社会に貢献しようとする意欲のある人
- ② 高い基礎学力と専門分野の基礎知識を持ち、科学的な根拠に基づいた保健・医療・福祉に貢献しようとする意欲のある人
- ③ 保健・医療・福祉の発展について、既成概念にとらわれずに創造的に考え、実践しようとする意欲のある人
- ④ 国際的視野を持ち、協調性に富む人
- ⑤ 就業のまま就学を希望する人については、仕事とのバランスを保って学業の課題を遂行できる人



カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

博士前期課程

高度な知識と技能を有し、幅広い視野を持つ実践者、教育者及び研究者を育成するために、看護学分野、理学療法学分野、作業療法学分野のすべての学生が学際的に学ぶ「共通科目」・「専門支持科目」と、分野ごとに開講する「専門科目」の3つに大別して編成します。

- 【共通科目】** 研究活動の基礎となる研究法と保健医療の基礎的知識等を学ぶための科目を配置します。
- 【専門支持科目】** 各分野の専門科目を学んでいく上で基礎となるとともに、学生の教育と研究の深化を可能とし幅広い視野を養うための科目を配置します。
- 【専門科目】** 分野ごとに専門知識の修得を目的とした特論・特論演習のほか、修士論文の作成に向けた、特別研究を配置します。専門看護師課程選択では、専門分野における高度な看護実践能力の獲得に必要な知識と技術の修得を目的とした演習や実習及び課題研究を配置します。

博士後期課程

看護学分野、理学療法学分野、作業療法学分野のすべての学生が学際的に学ぶ「共通科目」と、分野ごとに開講する「専門科目」の2つの科目区分で教育課程を編成します。

- 【共通科目】** 保健医療全般にかかわる社会的課題や、社会発展に貢献する基盤となる多職種連携・協働に関するシステム、研究者・教育者や高度専門実践の指導者として必要な理論や概念、さらに自立した教育や研究活動に向けた能力を養うための科目を講義や演習形式で配置します。
- 【専門科目】** 専門分野ごとに研究者・教育者や高度専門実践の指導者として必要な科目を配置し、専門職としての研究テーマや研究方法を追求する能力を涵養します。



ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

博士前期課程

- ① 臨床や教育と研究の場において、変化する保健・医療・福祉の課題と展望を発見し、解決していくために、幅広さと深さを兼ね備えた高度な専門的知識を活用して、科学的に思考することができる。
- ② 保健・医療・福祉の向上に、責任感を持ち、課題と展望を見出し、その解決に向けて積極的に貢献する高度な職業人としての姿勢を持つことができる。
- ③ 自らの研究について、的確に表現し、意見を交換することができる。

博士後期課程

- ① 臨床や教育、研究の場において、変化する保健・医療・福祉の課題と展望を発見し、創造的に解決していくために、幅広さと深さを兼ね備えた高度な専門的知識を活用して、科学的に思考することができる。
- ② 保健・医療・福祉の向上に、責任感を持ち、課題と展望を見出し、その解決に向けて積極的に貢献する指導者としての姿勢を持つことができる。
- ③ 自らの研究について、あらたな「知」として的確に表現し、意見を交換することができる。



看護学分野



【問い合わせ先】 分野代表：沼澤さとみ 教授

TEL：023-686-6625 Email：snumazawa@yachts.ac.jp

看護学は人々の健康と生活を支える実践科学です。人間や社会の複雑で多様な健康問題に対応するために、より専門性の高い看護が求められています。看護学分野では、看護を実践する中で起こる課題解決のために、高度な専門的知識や技術、創造的なケアを提供する実践力、研究能力を身につけることを目指します。そして大学院修了後は、豊かな知と心をもった看護実践者、研究者や教育者として活躍していくことを期待しています。

博士前期課程は、看護学特別研究選択と専門看護師課程選択を設けています。また、博士後期課程では、看護学に関してより深く体系的に学ぶことができます。大学院に入学する多くの人は、働きながら学ぶ社会人です。学びのニーズも学び方も多様です。看護の実践で感じた疑問について、大学院で自ら学びたいという意欲をもち主体的に学んだことは、看護職として成長するための糧となります。学ぶべき疑問のある人は大学院の門をたたいてみてください。



理学療法学分野



【問い合わせ先】 分野代表：鈴木 克彦 教授

TEL：023-686-6627 Email：ksuzuki@yachts.ac.jp

理学療法士の数は年々増加する一方で、理学療法の質の差が指摘されています。質の高い理学療法を提供するためには、専門職として常に新しい知見を吸収し、理学療法の効果を検証し、治療方法の開発・発展につなげることが望まれます。これらの能力は、研究活動で身につけられることが多くあります。具体的には、国内外の研究論文を読むこと、研究手法を検討・検証すること、研究で得られたデータを十分に考察することなどの過程で身につくと考えられます。

理学療法学分野には、県内のみならず全国各地から有職社会人の学生が多く集まってきます。仕事と大学院を両立するための長期履修制度があります。また遠隔の学生のためにオンラインでの講義や研究ミーティングも実施されています。臨床活動のなかで生じた疑問や興味のある分野を深めたいと感じている方の入学をお待ちしています。当該分野は専門分野の異なる教員が複数体制で指導します。興味のある方は、キャリアデザインとして大学院に挑戦してみたいはいかがでしょうか。一度ご相談ください。



作業療法学分野



【問い合わせ先】 分野代表：佐藤 寿晃 教授

TEL：023-686-6660 Email：tsato@yachts.ac.jp

平成29年4月から、博士後期課程が開設され、一貫した教育と研究の実施が可能となりました。

作業療法学分野では、博士前期・後期課程を通じて、作業療法学の様々な領域の基礎から応用実践に至る教育と研究を行います。そして、保健・医療・福祉の現場において、より高度な知識と技能を持った高度専門職業人の育成や、次代を担う人材の継続的な育成を行う教育者の養成及び諸問題の対策などの研究開発を行う研究者養成を目標としております。

特に、研究指導体制は、各分野の連携強化の視点から複数体制を取り、研究課題・計画に沿って、分野を問わず関係する教員が加わり、チームとして、より多角的な指導体制を導入しております。また、働きながら学べるよう、長期履修制度もありますので、学生の事情に合わせた履修が可能です。

作業療法学分野に興味のある方は、是非とも入学を検討願います。



保健医療学研究科の概要

看護学分野においては、臨床の現場で即戦力となる高度専門職業人の育成を目指し、基礎・地域看護学、応用看護学の各領域について、実践に即したレベルの高い教育・研究を行います。平成28年度に新設した専門看護師過程においては、医療現場で起こる様々な課題に的確・迅速に対応できる人材の育成を目指します。

理学療法学分野及び作業療法学分野においては、急速に拡大し専門化する理学療法及び作業療法に対応できる高度専門職業人の育成を目指し、理学療法学及び作業療法学の各領域について、急性期リハビリテーションのみならず、生活期リハビリテーションにも対応できるような実践に即した教育と研究を行います。

また、理学療法士学校養成施設・作業療法士学校養成施設の専任教員の育成を目指し、教育学に関する科目(4単位)を開設しています。

○博士前期課程の授業科目の概要

看護学分野		2領域	
看護学特別研究選択	領域		主な授業科目
	基礎・地域看護学領域	病態機能学特論、病態機能学特論演習	
		基礎看護学特論、基礎看護学特論演習	
		看護管理特論、看護管理特論演習	
		地域保健行政看護学特論、地域保健行政看護学特論演習	
		家族・在宅看護学特論、家族・在宅看護学特論演習	
	応用看護学領域	精神看護学特論、精神看護学特論演習	
		成人看護学特論、成人看護学特論演習	
		老年看護学特論、老年看護学特論演習	
		母子看護学特論、母子看護学特論演習	
過程専門看護師選択	領域		主な授業科目
	応用看護学領域	老年看護	老年看護展開論、老年看護学実習
		母性看護	周産期看護展開論、周産期看護実習
		精神看護	精神看護展開論、精神看護学実習

理学療法学分野		2領域
領域		主な授業科目
基礎理学療法学領域	運動解析学特論、運動解析学特論演習	
	運動生理学特論、運動生理学特論演習	
臨床理学療法学領域	運動機能理学療法学特論、運動機能理学療法学特論演習	
	神経機能理学療法学特論、神経機能理学療法学特論演習	
	運動障がいリハビリテーション学特論、運動障がいリハビリテーション学特論演習	

作業療法学分野		2領域
領域		主な授業科目
臨床作業療法学領域	神経障がいリハビリテーション学特論、神経障がいリハビリテーション学特論演習	
	作業活動解析学特論、作業活動解析学特論演習	
	内部障がいリハビリテーション学特論、内部障がいリハビリテーション学特論演習	
発達作業療法学領域	発達過程作業療法学特論、発達過程作業療法学特論演習	
	作業療育学特論、作業療育学特論演習	

○専門看護師の養成

本大学院の専門看護師過程を選択・学修することにより、日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定の単位を取得することができます。

●専門看護師への道

本大学院において取得可能

日本国の看護師の免許を有すること

① 看護系大学院修士課程修了者で日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定の単位(総計26単位又は38単位)を取得していること

②実務研修が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修であること

日本看護協会による認定審査(書類審査・筆記試験)

専門看護師認定証交付・登録(5年ごとに更新審査)

○博士後期課程の授業科目の概要

共通科目	保健医療福祉の連携・協働特論
	研究と倫理
	高等教育政策・教育方法特論
	看護の発展と研究特論
	リハビリテーションの発展と研究特論
	生体反応と臨床応用特論
	保健医療の社会的課題と対応特論
保健医療教育特論	

看護学分野	コミュニティヘルス看護学特論
	ヘルスプロモーション看護学特論
	看護学特別研究Ⅰ
看護学特別研究Ⅱ	看護学特別研究Ⅱ
	看護学特別研究Ⅲ
	理学療法学分野
理学療法学分野	運動器障がい動態解析学特論
	機能再建理学療法学特論
	理学療法学特別研究Ⅰ
理学療法学特別研究Ⅱ	理学療法学特別研究Ⅱ
	理学療法学特別研究Ⅲ
	作業療法学分野
発達過程作業療法学特論	
作業療法学特別研究Ⅰ	
作業療法学特別研究Ⅱ	作業療法学特別研究Ⅱ
	作業療法学特別研究Ⅲ

履修単位と履修要件

博士前期課程

修了単位の「31単位以上」又は「41単位以上」を2年間で修得することになります。
詳しくは、下記の表をご覧ください。

①看護学分野(看護学特別研究選択)、

理学療法学分野、作業療法学分野

次の基準により、31単位以上を履修する必要があります。

科目区分	履修単位数	備考
共通科目	1単位	必修
	4単位以上	選択
専門支持科目	4単位以上	選択
専門科目	12単位以上	選択
特別研究	10単位	必修

時間割は履修科目数によって違ってきますが、おおよそ1年次の前期に4コマ/週(8単位)、集中講義で5単位、後期に4コマ/週(8単位)、2年次はおもに特別研究になりますので、週2回程度大学に通えば修得可能です。なお、特別研究については担当教員と相談しながら進めることになります。

博士後期課程

右の基準により、19単位以上を修得する必要があります。

科目区分	履修単位数	備考
共通科目	3単位	必修
	4単位以上	選択
専門科目(特別研究を除く)	2単位以上	選択
特別研究	10単位	選択必修

②看護学分野(専門看護師課程選択)

次の基準により、41単位以上を履修する必要があります。

科目区分	履修単位数	備考
共通科目	1単位	必修
専門支持科目・専門科目	8単位以上	選択
専門支持科目	4単位	必修
専門科目	28単位	必修

時間割は履修科目数によって違ってきますが、おおよそ1年次の前期に7コマ/週(14単位)、後期に7コマ/週(14単位)、これに集中講義が加わります。2年次はおもに演習や実習中心のカリキュラムとなります。



指導教員及び研究テーマ

出願を希望する方は、出願前に、指導を受けようとする教員と電話、E-mail等で連絡をとり、入学後の研究等について相談を行ってください。

看護学分野

主研究指導教員(後期)	菅原京子 教授	齋藤美華 教授	安保寛明 教授	桂 晶子 教授
主研究指導教員(前期)	沼澤さとみ 教授 安保寛明 教授	遠藤恵子 教授 桂 晶子 教授	菅原京子 教授 鈴木育子 准教授	遠藤和子 教授 齋藤美華 教授 菊地圭子 准教授

職名	氏名・問い合わせ先	主な研究指導テーマ	後期	前期
教授	沼澤 さとみ 023-686-6625 snumazawa@yachts.ac.jp	・看護技術教育における教育方法の検討		○
		・看護実践能力の向上に関する研究		○
		・看護師教育（キャリア、継続教育など）に関する研究		○
教授	遠藤 恵子 023-686-6642 kendo@yachts.ac.jp	・不妊カップルに関する心理社会的課題や援助に関する研究		○
		・思春期の性的な健康問題に関する研究		○
		・知的障がいをもつ子どもの性教育に関する研究		○
		・地域における母子の健康支援に関する研究		○
教授	菅原 京子 023-686-6615 ksugawara@yachts.ac.jp	・複雑多岐に渡る健康課題を有する対象者への共生を目指した支援に関する研究	○	○
		・保健師記録と情報開示に関する学際的研究	○	○
		・地元医療福祉の担い手となる看護職者の役割に関する研究	○	○
		・地域看護診断に基づいた保健師活動に関する研究	○	○
教授	遠藤 和子 023-686-6644 kaendo@yachts.ac.jp	・臨床看護、成人看護学に関する研究		○
		・患者教育に関する研究		○
		・食看護、糖尿病看護に関する研究		○
		・ライフストーリーに関する研究		○
教授	齋藤 美華 023-686-6708 misaito@yachts.ac.jp	・臨床倫理に関連する研究		○
		・高齢者の看取りケアに関する研究	○	○
		・高齢者の倫理的課題に関する研究	○	○
教授	安保 寛明 023-686-6735 hambo@yachts.ac.jp	・高齢者および家族の健康とQOLに関するテーマ全般	○	○
		・精神疾患を有する人への援助と回復過程に関する研究	○	○
		・働く人のメンタルヘルス増進および離職予防に関する研究	○	○
		・精神保健面で配慮が必要な人のための地域包括支援システムに関する研究	○	
教授	桂 晶子 023-686-6623 skatsura@yachts.ac.jp	・総合病院におけるリエゾン精神専門看護師の機能に関する研究		○
		・家族介護者支援、高齢者虐待予防など高齢者のQOL向上に関する研究	○	○
		・生活習慣病の重症化予防など住民の健康寿命延伸や健康づくりに関する研究	○	○
		・地域防災および災害時の公衆衛生看護活動に関する研究	○	○
准教授	鈴木 育子 023-686-6645 isuzuki@yachts.ac.jp	・保健師活動に関する研究	○	○
		・在宅療養児・者とその家族への援助に関する研究		○
准教授	菊地 圭子 023-686-6729 kkikuchi@yachts.ac.jp	・訪問看護に関する研究		○
		・性の健康教育に関する研究		○
准教授	南雲 美代子 023-686-6626 mnagumo@yachts.ac.jp	・女性の健康と運動に関する研究		○
		・周産期の女性の健康課題と支援に関する研究		○
		・母乳育児に関する研究		○
准教授	平石 皆子 023-686-6620 mhiraishi@yachts.ac.jp	・キネステティクス教育プログラムを活用した日常生活援助技術に関する研究		○
		・キネステティクス教育プログラムが専門職に及ぼす影響		○
准教授	蓬田 伸一 023-686-6637 syomogida@yachts.ac.jp	・ハイリスク妊産婦の援助に関する研究		○
		・妊娠期の保健指導に関する研究		○
		・分娩期の助産ケアに関する研究		○
准教授	蓬田 伸一 023-686-6637 syomogida@yachts.ac.jp	・生理活性物質による細胞機能調節機構の解析		○
		・細胞の物質取り込みとそれを制御する因子の探索		○

理学療法学分野

主研究指導教員(後期) 鈴木克彦 教授 石川 仁 教授 村 成幸 教授 加藤 浩 教授 高橋俊章 教授
 主研究指導教員(前期) 鈴木克彦 教授 石川 仁 教授 村 成幸 教授 加藤 浩 教授 高橋俊章 教授
 南澤忠儀 准教授

職 名	氏名・問い合わせ先	主 な 研 究 指 導 テ ー マ	後期	前期
教 授	鈴木 克彦 023-686-6627 ksuzuki@yachts.ac.jp	・足部変形の運動連鎖に関する研究	○	○
		・超音波画像解析による深部筋の機能解析研究	○	○
		・運動障がいに対する徒手治療の効果に関する研究	○	○
教 授	石川 仁 023-686-6646 hishikawa@yachts.ac.jp	・予防医学領域におけるバイオマーカーの探索	○	○
		・ワクチン接種率の地域間格差の要因研究	○	○
教 授	村 成幸 023-686-6648 nmura@yachts.ac.jp	・超音波elastographyを用いた肩周囲の機能解析研究	○	○
		・画像 (MRI・CT・超音波) による病態解析研究	○	○
教 授	加藤 浩 023-686-6659 hikato@yachts.ac.jp	・運動器疾患の理学療法に関する研究	○	○
		・表面筋電図を用いた動作分析に関する研究	○	○
		・バイオメカニクスに関する研究	○	○
教 授	高橋 俊章 023-686-6662 ttakahashi@yachts.ac.jp	・小児理学療法の手技及び効果に関する研究	○	○
		・中枢神経系障がい者のバランスに関する研究	○	○
		・中枢神経系障がい者のポジショニングに関する研究	○	○
		・リハビリテーション提供体制に関する研究		○
准 教 授	南澤 忠儀 023-686-6639 tminamisawa@yachts.ac.jp	・立位姿勢の制御機構に関する研究		○
		・運動中の脳波-筋電図コヒーレンスに関する研究		○
		・転倒予防を目的とした物理的刺激療法の開発		○
講 師	赤塚 清矢 023-686-6737 sakatsuka@yachts.ac.jp	・予防理学療法に関する研究		○
		・生活習慣と身体機能に関する研究		○
		・心拍変動解析を用いた自律神経機能の評価に関する研究		○
助 教	鈴木 栄三郎 023-686-6764 esuzuki@yachts.ac.jp	・非侵襲的脳刺激および心理物理学手法を用いた模倣・観察学習に関する基礎研究		○
		・末梢神経磁気刺激法に関する基礎研究		○

作業療法学分野

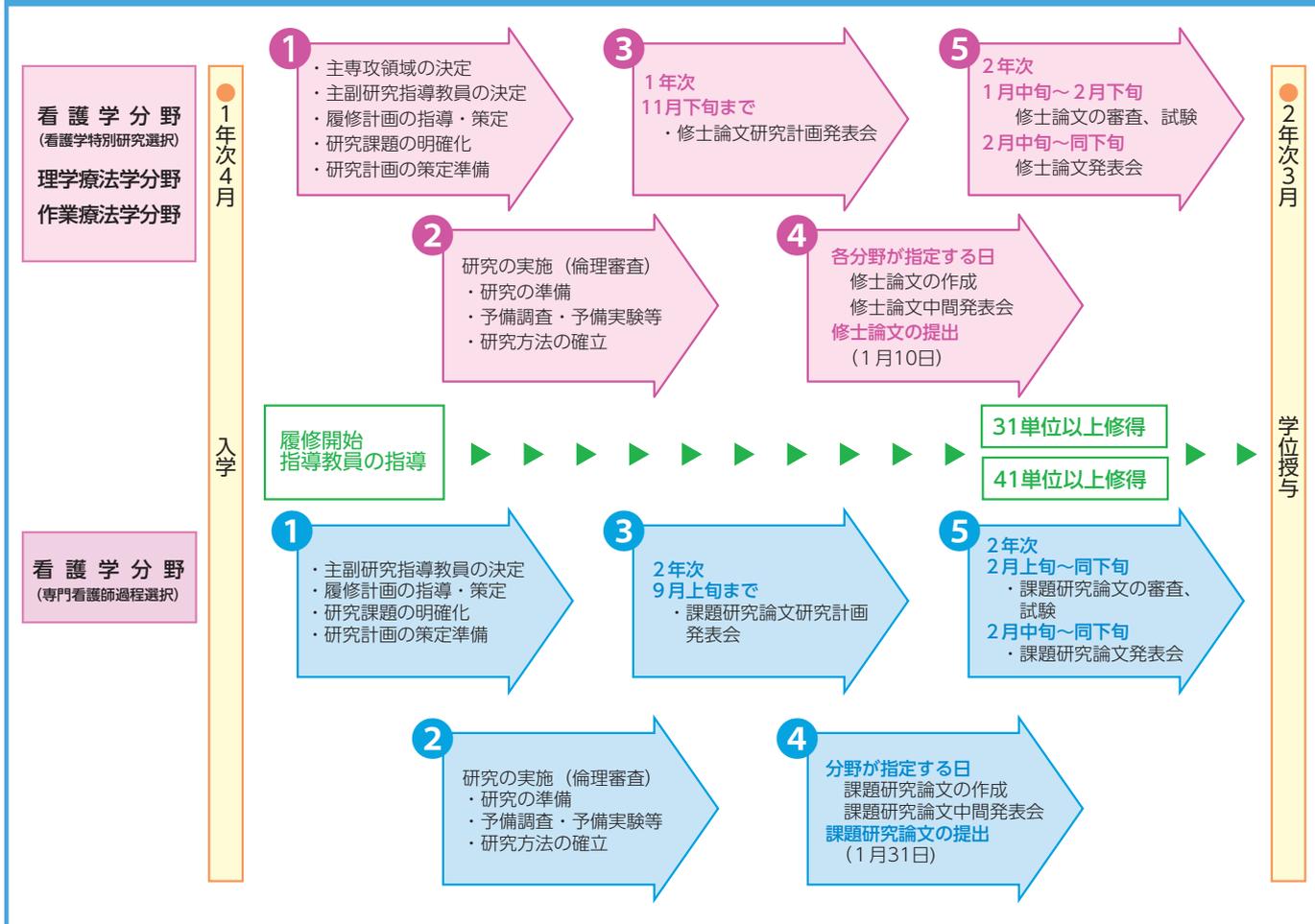
主研究指導教員(後期) 佐藤寿晃 教授 藤井浩美 教授 八巻通安 教授 菊池昭夫 教授
 主研究指導教員(前期) 佐藤寿晃 教授 藤井浩美 教授 八巻通安 教授 菊池昭夫 教授
 千葉 登 准教授 鈴木由美 准教授 外川 佑 准教授

職 名	氏名・問い合わせ先	主 な 研 究 指 導 テ ー マ	後期	前期
教 授	佐藤 寿晃 023-686-6660 tsato@yachts.ac.jp	・ヒト上肢運動機構における機能解剖学および神経生理学的研究	○	○
		・運動器疾患における運動機能評価および治療効果に関する研究	○	○
		・高齢者の介護予防に関する研究	○	○
教 授	藤井 浩美 023-686-6649 hfujii@yachts.ac.jp	・ヒト上肢の機能解剖学・神経生理学的研究	○	○
		・片麻痺の上肢機能に関する研究	○	○
		・眼と手の協応に関する研究	○	○
		・日常生活の作業活動解析に関する研究	○	○
教 授	八巻 通安 023-686-6656 myamaki@yachts.ac.jp	・心肺機能の運動生理学的評価に関する研究	○	○
		・心肺機能に及ぼす自律神経活動の評価に関する研究	○	○
教 授	菊池 昭夫 023-686-6661 akikuchi@yachts.ac.jp	・神経変性疾患のPETによる脳機能解析	○	○
		・パーキンソン病の認知・嚥下・歩行障がいの病態解明	○	○
		・多系統萎縮症の病因研究	○	○
准 教 授	千葉 登 023-686-6629 nchiba@yachts.ac.jp	・脳卒中上肢運動機能に関する研究		○
		・障がい者スポーツの社会的認知に関する研究		○
		・障がい者スポーツ選手の競技力向上のための研究		○
准 教 授	鈴木 由美 023-686-6652 yusuzuki@yachts.ac.jp	・上肢機能と日常生活活動の関連		○
		・頸部脊髄症者の上肢運動機能の回復過程と日常生活活動の研究		○
		・急性期脳卒中患者の転帰先を予測する作業療法評価の研究		○
准 教 授	外川 佑 023-686-6650 tsotokawa@yachts.ac.jp	・障がい後の自動車運転再開に関する研究		○
		・高齢者の自動車運転および地域移動手段に関する研究		○
准 教 授	森 直樹 023-686-6657 nmori@yachts.ac.jp	・重症心身障がい児・者の呼吸生理に関する研究		○
		・在宅障がい児の家族支援に関する研究		○

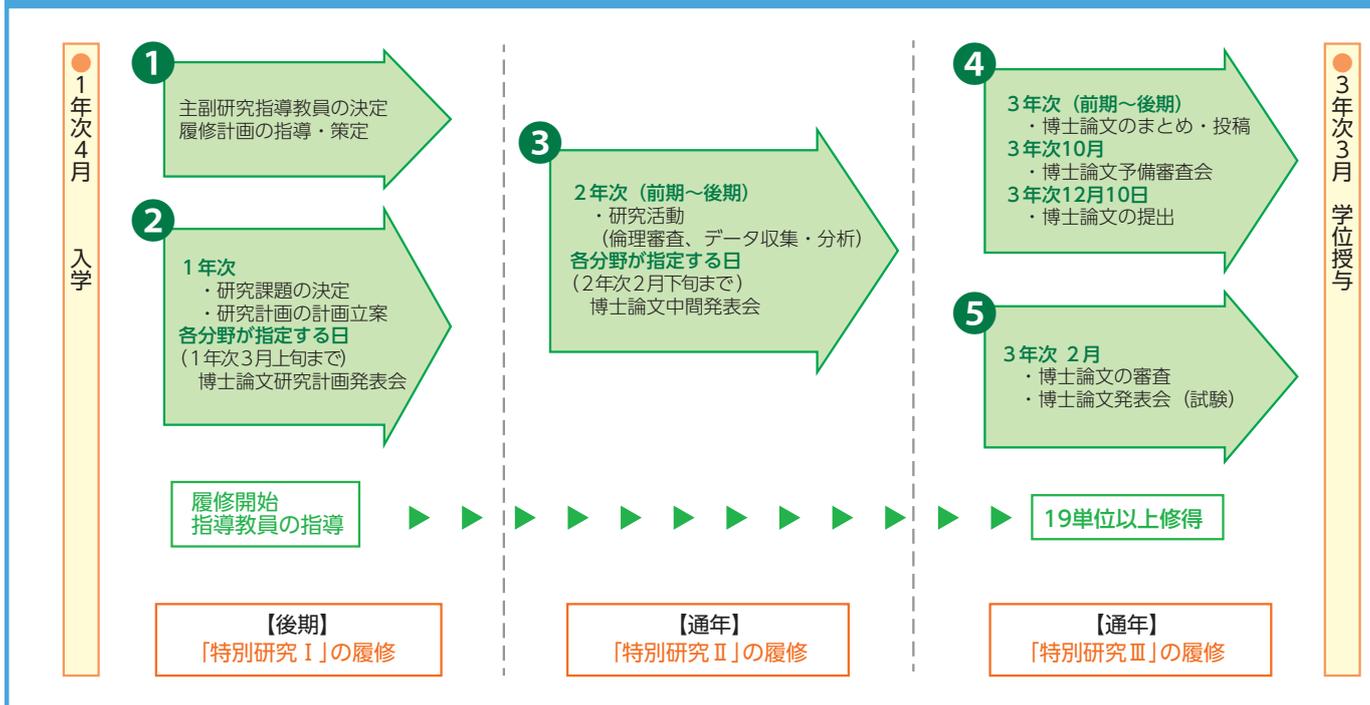


履修指導及び研究指導の方法・スケジュール

○博士前期課程学位取得までのフロー [通常の場合]



○博士後期課程学位取得までのフロー [通常の場合]





Q1 出願資格について

博士前期課程

A... 出願資格は、①大学卒業生、②大学改革支援・学位授与機構の「学士」取得者、③短期大学及び高等専門学校卒業生、専修学校専門課程の修了者等で、本学大学院において個別の入学資格審査の結果、大学を卒業したものと同等以上の学力があると認定されたもので22歳に達した者、④その他学校教育法第102条2項に規定する者で、本学入学資格審査基準を満たす者等となります。

なお、③④は出願資格審査がありますので、書類の提出が必要です。

また、入学時において、看護師等の国家資格者として3年以上※の実務経験を有する者については、選抜区分で「社会人特別選抜」を設けています。選抜方法については、面接を重視した点数配分を考えています。

博士後期課程

A... 出願資格は、①修士の学位又は専門職学位を有するもの(見込みの者を含む)、②大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事し(見込みの者を含む)、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者、③修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められ、24歳に達した者(24歳になる見込みの者を含む)となります。

なお、②③は出願資格審査がありますので、事前に書類の提出が必要です。

また、博士前期課程と同様、看護師等の国家資格者として3年以上※の実務経験を有する者については、選抜区分で「社会人特別選抜」を設けています。

※①国家試験受験後の合格見込みによる採用期間等は実務経験の期間に含む。

②連続した期間でなくとも、通算で3年以上働いていれば可とする。

③判断が困難な場合は個別に検討する。

Q2 修業支援制度について

A... ▼長期履修制度

職業を有していたり、介護・育児に従事している等の事情により標準修業年限(博士前期2年・博士後期3年)を超えて一定の期間(博士前期1年・博士後期2年(休学の期間を除く))にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度です。

なお、長期履修制度を利用する場合は、標準修業年限(2年又は3年)を超える長期履修期間の授業料については免除します。

▼夜間講義・集中講義

社会人が働きながら学べるよう、大学院設置基準第14条により、夜間講義を設けるほか、必要に応じ土曜・日曜・祝日や夏季・冬季休業期間中に集中講義を設けています。

▼ティーチング・アシスタント制度

優秀な大学院生に、教育的配慮のもとに、教員の教育補助者として、授業の準備・補佐や実習の支援などに従事してもらうことにより、経済的支援とともに教育トレーニングの機会の提供を図る制度です。

▼リサーチ・アシスタント制度

優秀な博士後期課程の学生に、教員の研究補助者として、研究活動の補助業務に従事してもらうことにより、経済的支援とともに研究者としての研究遂行能力の育成を図る制度です。



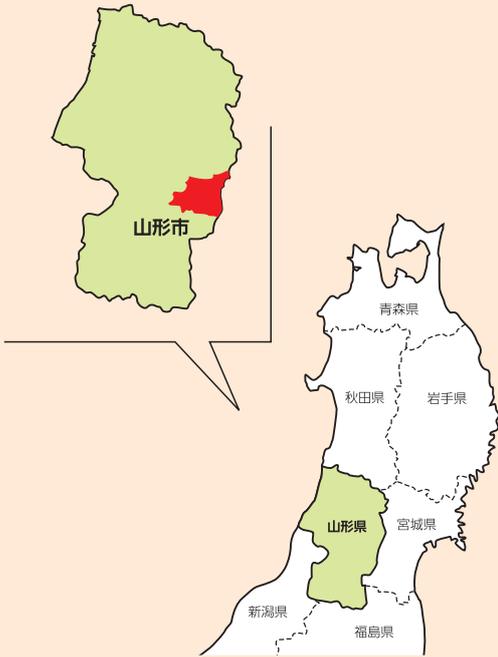
Q3 募集要項の請求について

A... 募集要項は、9月下旬から配布を予定しています。請求方法は、本学の事務室窓口で受け取るか、郵送による方法になります。

郵送による送付を希望する場合は、郵便番号・住所・氏名を明記し、250円分(1部請求の場合)の切手を貼付した返信用封筒(角形2号)を同封のうえ請求してください。なお、封筒の表面には「大学院学生募集要項請求」と朱書きするとともに、裏面には住所・氏名・電話番号を記載してください。



交通アクセス



	羽田空港	JAL 約60分	山形空港	タクシー 約40分	保健医療大学
	伊丹空港	JAL 約75分	山形空港	タクシー 約40分	保健医療大学
	名古屋空港	JAL/FDA 約65分	山形空港	タクシー 約40分	保健医療大学
	新千歳空港	JAL/FDA 約65分	山形空港	タクシー 約40分	保健医療大学

	東京	高速バス 約5時間40分	山形
	仙台	高速バス 約1時間15分	山形
	酒田(鶴岡)	高速バス 約2時間45分(約2時間)	山形
	山形駅	県立中央病院行 約30分	徒歩 約5分

	山形新幹線		山形駅
	東京駅	約2時間45分	山形駅
	JR奥羽本線	徒歩 約10分	南出羽駅
JR奥羽本線・仙山線	徒歩 約20分	羽前千歳駅	保健医療大学

	山形駅	タクシー 約20分	保健医療大学
--	-----	-----------	--------



本学は公益財団法人大学基準協会の評価を受け、同協会の大学基準に適合していると認定されました。



山形県立保健医療大学 マスコットキャラクター「ワイワイ」

雪国山形ならではの「雪だるま」と愛らしい「パンダ」をモチーフにして生まれました。本学のシンボルマークがモチーフとなっています。両手をあげて喜びを表しています。
口ぐせ：「わーい！」

●お問い合わせ先
〒990-2212 山形県山形市上柳260番地
TEL: 023-686-6688 FAX: 023-686-6674
URL: <https://www.yachts.ac.jp/>
@YPUHS_koho



山形県立保健医療大学
WEBサイト